

# Impression of Sado(佐渡の印象) 佐和田地区ALT スイア先生(カナダ)

To be honest, when I found out that I would be living on Sado I had no idea where it was or what it would be like. My knowledge of Japanese culture and geography was minimal at best; I really only had clichés of samurai, geisha and sushi in mind. I asked some Japanese people at the cultural centre in my hometown if they knew anything about Sado, and they didn't. This worried me slightly, because if Japanese people had misplaced an entire island, then it must be very isolated and small indeed. However, I figured that a rural area would give me a better chance to experience Japanese culture and immerse myself in a life very different from my own.

I remember when I first got here and I drove the Sado skyline. Wind-ing through the mountains and being able to see both Ryotsu and Sa-wata at the same time left me feeling slightly hemmed in. I grew up surrounded by many mountains and wide open spaces; a country where if you didn't like where you were, you could just hike or drive to the next location that suited you. Last year I spent a lot of time hiking the mountains of Osado, and when I reached the top and saw ocean stretching as far as the eye could see, I always felt deflated. I realized that there was nowhere else to go, that I had reached my destination.

A year later, I have not been disappointed. I've learned to appreciate the wildness of the sea and the endless horizon that stretches to-wards other countries and other cultures, a world of people that seem closer to me despite the expanse of blue that separates us. When I hike, I don't worry so much anymore about getting to the top; I stop a lot and listen to the cicadas and the different birds in the trees. I ap-preciate the fact that I am hiking on an island where the possibility of being eaten by a bear or cougar is non-existent, unlike hiking in Can-ada where you have to be much more cautious in the mountains.

When I walk back and forth between my schools and the kyoikuiinkai, I am always drawn to the ocean, especially in the winter when the sea is tempestuous and wild, the clouds above me a strangely lumi-nescent deep blue. I have grown to love the fierceness of the storms, the way that the trees along the shoreline are bent and crooked, yet not broken. Geography shapes people in a way that nothing else can. On Sado, I have found a commonality that I never thought possible, a kinship with the strong and independent type of people that I know back home. A year ago I would not have been able to imagine living on an island and liking it, but I do.

I hope to spend the next year improving my Japanese, so that when the wonderfully friendly people in my neighborhood and my charming students are eager to chat, I can tell them how much I love Sado and that I want to know more about their lives, because I'm certain that we have much more in common than any of us can even imagine.

正直に言うと、私が佐渡に住むことになったとき、佐渡がどこにあって、どのようなところか知りませんでした。日本の文化や地理について知っていることと言えば、侍や芸者、すしといった程度でした。私の住んでいる町の文化センターで、佐渡について知っているかどうか、数人の日本人に尋ねてみました。でも、だれも知りませんでした。カナダにいる日本人の達が佐渡のことを知らないの、きつと孤立した小さい島に違いはないと、少し不安になりました。



しかし、田舎は日本の文化を経験し、自分とまったく異なる生活に触れる良い機会だと思いました。

初めて佐渡に来て、スカイラインをドライブしたときのことを覚えています。曲がりくねった山道を登り、両津と佐和田を同時に見ることができる場所に立ったとき、少し閉所感におそわれました。私は多くの山と広大な土地に囲まれた場所、自分の好きなところにドライブしたりハイキングしたりして行ける場所です。

昨年、私は幾度も大佐渡山脈をハイキングしました。山頂に着いて、見渡す限りの海を眺めると、いつも気が重くなりました。頂上に到達すると、まわりが海に囲まれているので、どこにも行き場所がないと実感するからです。

1年たって、私はがっかりしていません。異国や異国の文化につづく海や水平線が好きになり、青い海で隔離されているにもかかわらず、世界の人々がより身近に感じられるようになりました。

ハイキングをしても、頂上にたどり着くことは、もう嫌ではあありません。何度も立ち止まっては、多くのせみや鳥の鳴き声を聞いています。佐渡でのハイキングはカナダとは違い、熊やクーガーに襲われる心配がないということも分かりました。

学校と教育委員会を行き来しているとき、私はいつも海にひきつけられます。特に冬、海は荒々しく、空が妙に真っ青なときです。私は、嵐の荒々しさや海岸沿いの、曲がっていても折れずにいる木々のある道が、とても好きになりました。

地理的環境は、他の何人々も形づくります。佐渡で、私が思ってもいなかった、共通点を見ました。私が知っているカナダの人々と同じように、強い信頼関係をもっていることと、しっかりと自立していることです。

1年前は、島で生活したり、島が好きになったりすることなど、想像もできませんでした。でも、今はとても佐渡が大好きです。

来年は、日本語が上手になりたいと思います。仲の良い友達や生徒が、熱心に話しているとき、私がどんなに佐渡が好きであるかを伝えたいと思います。そして、佐渡の人たちの生活をもっと知りたいと思います。想像以上に、もっと共通点があると確信しているからです。

お問い合わせ先  
企画情報課情報センター  
室(CNステレ)  
51 2030

地上デジタル放送をアナログからデジタルにすることに、情報量を圧縮し、今までテレビ放送で使っていた電波の帯域を空けることにより、この空いた帯域を他の新しいサービスに有効活用できるようにします。

地上テレビ放送をアナログからデジタルにすることに、情報量を圧縮し、今までテレビ放送で使っていた電波の帯域を空けることにより、この空いた帯域を他の新しいサービスに有効活用できるようにします。

Q どうしてデジタルに変わるの？  
A 電波はテレビ放送や通信等に利用されていますが、無限に使えるわけではありません。最近の携帯電話の急激な普及に加え、無線系のインターネット等新しいサービスが次々に実用化され始めてきたため、これらの新たな電波の需要に追いつかない状況になっていきます。

Q 地上デジタル放送ってなに？  
A 映像や音声をデジタル信号に置き換えて送信することをデジタル方式といいます。現在、アナログ方式で放送されている地上波放送がデジタル放送になると、電波障害を受けにくく映像も今までよりきれいになります。またデータ放送など新たなサービスを利用することができ、大変便利になります。

現在ご覧になっているアナログ放送は2011年までは並行して放送されますが、それ以降はすべてデジタル放送に移行します。

知ってる？  
地上デジタル放送が来年4月から新潟県でもよいよスタートします！



## みんなの広場

みんなの広場は皆さまからの写真やイラストのコーナーです。たくさんの方の投稿をお待ちしています！

あて先は  
編集部(広報広聴係)63-4152)  
「市報みんなの広場係」  
まで

## おわびと訂正

市報さど8月号10ページ、本間最古園さんの土地建物の寄贈文中に誤りがありました。「山下紀子」さんは、「山上紀子」さんの、「本間幸作」さんは、「本間耕作」さんのそれぞれ誤りでした。おわびして訂正します。(本間最古園さんからは旧新穂村当時もご寄付をいただいております、深く感謝いたします。)

